

和歌山－奈良・五條

県境越えカルテ共有

久保田
情報技研 医師会にシステム

久保田情報技研（東京都渋谷区、久保田俊雄社長、03・5456・8066）は国内初の、県境をまたぐ地域医療連携システムを構築する。同社が2002年から開発、運用する伊都医師会（和歌山県橋本市）の「ゆめ病院」に、新たに奈良県五條市が参画する。年内にシステム構築を終え、来年1月に運用を始める。

久保田情報技研はほかの地域でも採用を働きかけるほか、同システムや電子カルテ、医療画像処理などを含めた医療関連事業を、今後3年間で売り上げ10億円（現在は約2億円）規模に引き上げることを目指す。

「ゆめ病院」はインターネット上で患者の電子カルテを共有し、会員医師の医療機関を受診した患者の医療情報を、患者の同意の上で、ほかの会員医療機関でも閲覧できるようにするシステム。

医療機関に加えて、訪問看護ステーション、かかりつけ薬局との連携を開始している。和歌山県橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町で運営しており、現在の参画住民は約6万5000人。ここに、橋本市に隣接する奈

良県五條市が加わる。同事業は今年度、総務

省の「地域ICT利活用広域連携事業」の採択を受けることが決まっている。09年度には同省の「ユビキタスタウン構想推進事業」の採択を受け、2年連続の採択となる。

通常、こうした医療連携システムを構築する場合は、セキュリティ確

保を狙いに専用回線を新たに引いて構築するため高コストとなる。

同社は通常のインターネット回線でもセキュリティを確保する技術を所有しており、長期間の継続が困難と言われる地域医療連携システムを低コストで運用できるとしている。